

2
[Special 1]
シリーズ
この時代を生きる家
Tackling the next 100years

12
[Special 2]
スペシャルインタビュー
住まいの土台は、
誠実なものづくり。

18
[Technology]
スウェディちゃんの
なぜ?なに?どうして?
教えてムース先生!

22
[Culture]
私の小宇宙Sweden

23
[Life Style]
グリーンと暮らせば
Owner Gardener's Life

24
[Performance]
たがわない約束

25
[Life Style]
ミュージクの扉
knock to mjuk

26
[SWEDEN HOUSE CIRCLE]
Good Neighbors

この時代を
生きる家

第4回 希望の家

持続可能な社会って、
希望を手渡していくことなんだと思う。

高校に通う娘が宿題だと言って、SDGs
(Sustainable Development Goals：持続可能な

開発目標)についてのレポートをまとめていた。
2015年に国連総会で採択された行動目標への
認識が国内でも広がりつつあり、学校でも取り
上げているようだ。

子どもや孫の世代に、安心して渡せる環境や経
済、「社会」をつくるために、地球レベルで取り
組むという行動目標SDGsは、地球に暮らす一
人ひとりが、自分にできることを見つけて取り組
むというところに特徴がある。掲げられている目
標は17あるが、中でも「つくる責任つかう責任」
は、日常生活の中で誰もが向き合うことのできる、
身近な項目の一つだと思う。

我が家がスウェーデンハウスを建てた15年前、ス
ウェーデンの住哲学を知り、目から鱗が落ちたのを
思い出す。親が家を持ち、子どもが別荘を持ち、孫
がヨットを持つ…建てては壊すというスクラップ&
ビルドに財産を使うのではなく、「良いものを受け
継いでいく」という文化。それは豊かな生活を人々
にもたすだけでなく、地球環境にも優しい生き方
であり、スウェーデンハウスの根っこはその考え方
にあるのだと知った時、この家に住みたいと思った。



この時代を 生きる家

— シリーズ — Tackling the next 100years —

スウェーデンは目標の達成率を示す「SDGs
ランキング」でこの5年間、4回の世界一となっ
ている(2019年のみデンマークが1位。日本
は2020年17位)。まさに世界のリーダー的存
在だ。SDGsという言葉が生まれる遙か昔、今
から100年も前に、スウェーデンでは子どもた
ちが「100年後の祖国のために」と植樹をして
いた。そんな昔から徹底した環境教育が続いてい
るのだから、当然といえば当然のことかもしれな
い。スウェーデンにとってSDGsは日常のこと。
ましてやただのブームなどでは決してない。いま
で通り、これからも変わらない、彼らの「生き方」
の一部にすぎない。

この時代を
生きる家

シリーズ | Tackling the next 100years





この時代を 生きる家

— シリーズ — Tackling the next 100years —

あとから来る者のために／田畑を耕し／種を用意しておくのだ／山を／川を／海を／きれいにしておくのだ／ああ／あとから来る者のために／苦勞をし／我慢をし／みなそれぞれの力を傾けるのだ／あとからあとから続いてくる／あの可愛い者たちのために／みなそれぞれ自分ができる／なにかをしてゆくのだから——詩人、坂村真民^{※1}の「あとから来る者のために」も、SDGsという言葉などない時代に書かれた詩だ。政治や経済、科学、難しいことを全て理解することはできないけれど、原点はこういうことなのではないかと私は思っている。持続可能な社会を語ることは、「希望」を語ることなのだ。



私たちのあとから、私たちの可愛い人たちがやって来る。あとからあとからやって来る。胸を張って渡せるものを、今用意しなければいけない。遅まきながら世界がようやく本腰を入れ、スウェーデンを見習いながら歩み始めている。地球一個分しかない資源で、世界の人々や、生き物と、共に生きていくにはどうしたらいいのか。誰一人取り残さないために、行動の一つひとつを変えていこうと呼びかけている。



※1 坂村真民(さかむら しんみん)
1909 (明治42)年～2006 (平成18)年 詩人



この時代を 生きる家

シリーズ | Tackling the next 100years

コロナ禍にみまわれたこの一年、いやがおうにも私たちの行動は変化し、生活スタイルも変わった。最初は慣れなくて戸惑ったことも、徐々に日常になり、むしろ「この方が良かった」と思える行動様式や、新しい価値観にも出会うことができた。コロナ禍という憂うべききっかけではあつたけれど、「変わる」ということは素晴らしいことだ。SDGsへの取り組みをきっかけに、世界中が心を砕き、手を取り合い「あとから来る者のために」変われるといい。

どんな家建てるか、その選択は世界を変える。決して大袈裟ではない。100年前、子どもたちが植えた小さな苗が、現在のスウェーデンを「森の国」と呼ばれる環境大国とならしめたように、一人の小さな行動こそが、未来を変える力となる。CO₂を固定できる木の家で、100年住める強さ、冷暖房効率の良い気密・断熱性能：SDGsの中にうたわれている、「つ



くる責任」がしっかりと果たされている家だ。そして、私たちには「つかう責任」がある。スウェーデンハウスを選んだことは、家族にとっても、地球にとつても、正しい選択だったと自負している。

娘が2歳になる春、私たちはこの家に入居した。荷解きをしながら、100年先のこの家のことを、会うこともないだろう娘の孫たちのことを、明るく思い描いたのを覚えている。それは確かな希望であり、幸福だった。あの日からずっと、その希望は色褪せることがない。

【モデルハウスインフォメーション】

スウェーデンハウスのモデルハウスには、一つひとつの家にも、安心して暮らせる心地よさがあります。また築年数を重ねて味わいを深めてゆく、それぞれの美しさがあります。ぜひ実際に見て、感じてください。

<https://www.swedenhouse.co.jp/modelhouse/>

【掲載モデルハウス】松戸モデルハウス